D 12　　個室における収納空間計画　　その1 収納スペースの現状

日女大家政　沖田富美子

目的　効率良い収納空間計画は、今日の限られた住空間において快適な住生活を営むための必要要素の一つである。特に流行に大きく左右される衣類の収納空間としては、未だ多くの衣類収納家具をもちこむことで対処しているのが現状である。本研究は、収納空間の計画基準を作成するための基礎資料を得ることを目的に行ったものである。

方法　A女子大学の学生（2年次）を対象に、各自の部屋の平面図及び展開図の図示（家具名及び寸法、収納状態の記入）及び衣類の所有の有無と収納方法等のアンケート調査をおこなった。調査時期は1984年6-8月である。配布件数86件、回収件数78件（回収率90.7%）であるが、本研究の分析では、自宅通学者のみ有効とした（有効件数54件）。

結果　1)調査対象学生の家族は、会社、団体役員及び管理職に従事する年収600万円以上平均年齢51.1才の世帯主と、専業主婦の両親に、弟あるいは姉の2人の子供で構成される平均4.3人の家族である。2)本人の誕生から低学年の間に建設された都区内にある一戸建て持家（平均延床面積120.0平方m）住宅居住者が多い。3)調査対象学生の部屋は、本人のみの個室であるものが圧倒的に多く、平均11.78平方mの広さを有する。4)その個室には平均6.8種類（衣類収納家具は2種）8.1個の家具（衣類収納家具は2個）がもちこまれている。5)これらの所有家具の専有面積は平均4.12平方mで部屋面積の1/3を、衣類収納家具はその1/4を占める。6)押入れ、物入、洋服ダンスなどの作り付け収納スペースのある部屋は約7割で、0.81平方mの面積のものが多い。7)自室外にも専用の衣類収納家具を所有しているものは14.8%にすぎないが、家族共用の衣類収納家具を有するものが66.7%いる。